



## 夢の蔵人、 やりがいと楽しさ

八戸酒造 畑内 美憂さん(20)  
※2025年10月時点



### 10代で日本酒の世界へ

10代で日本酒造りの世界に飛び込んだ畑内美憂さん。日本酒好き、特に八戸酒造のファンである父の影響で、小学生の頃から同社の蔵人になることは夢でした。就職活動では同社の求人を見つけられなかったため、先生のおつてをたどって同社に直談判。最終的に面接を受けて無事に合格し、2024年春、250年の歴史と数々の実績がある蔵の一員になりました。

所属は製造部。酒のアルコール度数や酸といった状態を毎日、分析する業務などを担当しています。同社には若手蔵人が手がけるシリーズ商品があり、今年はこの企画にも挑戦。「20歳の誕生日に家族や友人と飲みたい日本酒」をコンセプトにした商品で、誕生月の9月に発売されました。

「10代でも日本酒を造れるんだということを知ってもらえたら。酒造りの基礎的な知識をもっと身に付けたいと実感しました」と、探究心が増した様子です。

はたうち・みゆ 2005年9月、八戸市生まれ。八戸工業大学第一高校を卒業後、八戸酒造に入社。学生時代は吹奏楽部に打ち込み、フルートを担当、趣味は絵を描くこと。

### イメージは「男性仕事」？

日本の「伝統的造り」は24年12月、国連教育科学文化機関（ユネスコ）の無形文化遺産に登録されました。かつて酒蔵は「女人禁制」とされた時代がありました。加えて力仕事のため、「男性の仕事」というイメージが強いことは無理ありません。

今でも男性が多い職場ではありますが、全国をみれば、酒造りの最高責任者である「杜氏」として女性が活躍している酒蔵もあります。蔵によっては機械化が進んでおり、女性の進出が増える可能性がある業界です。

畑内さんによると、力仕事や冬の蔵の寒さは蔵人の大変な面ではあるものの、職場の雰囲気や先輩のサポートがあり、やりがいや楽しさの方が大きいといいます。「男性、女性というより、その人に仕事が合うかどうかだと思います。女性が挑戦しやすい環境を作っていきたいです」と語ります。

感性を生かしつつ経験を重ね、伝統文化の担い手として活躍を広げていきそうです。

## INFO

### 八戸市からのお知らせ

#### 「DVかな？」と思ったら、 一人で悩まず相談を！



一般的に、配偶者やパートナーなどの親密な関係にある(あった)者から振るわれる暴力のことを、DV(ドメスティック・バイオレンス)といいます。暴力の種類には、身体的暴力、精神的暴力、性的暴力、経済的暴力、その他の暴力があります。どんな相談もお気軽にご連絡ください。

#### 八戸市配偶者暴力相談支援センター

TEL:0178-38-7339 ※9時～17時  
土日祝日を除く  
メール相談も受付ています

#### DV相談ナビ

はればば #8008

#### DV相談+

※24時間受付

TEL:0120-279-889

電話、チャット、プラス相談箱  
10か国語に対応(チャット)



#### DVホットライン(青森県女性相談支援センター)

TEL:0120-87-3081 ※24時間受付  
緊急通報専用

#### 男女共同参画社会を考える情報誌 「WITH YOU」 年2回発行(10月・3月)



市ホームページ

バックナンバーは  
市ホームページで閲覧可能です。

#### 市の取組

市では男女共同参画社会の実現に向けて様々な取り組みをしています。



市ホームページ

- ・著名な講師から男女共同参画について学ぶ講演会
- ・女性のスキルアップを目的とした連続講座
- ・各種イベント等でのパネル展示やパネルアンケート
- ・多様な性のあり方について学ぶ研修会 ほか

